



第03号

総探で授業共創する！
1年生総探の実践について



授業の思い出①

曾田先生（家庭）の思い出

市販のゼリーのプルプル食感を出すために、小学校2年生の時から研究していました。当時はゼリーをつくるものといえばゼラチンか寒天しかなく、どうやったらあの食感になるのか疑問に思っていました。高校生の時にアガー（カラギーナン）というものを調理実習で扱った際に、長年の疑問が解決しました。世の中には自分の知らない食材がたくさんあり、学ぶことの面白さを知りました。

授業の思い出②

吉村先生（地理）の思い出

普段の授業は寝ることもほとんどなく、予習も割と真面目にやっていました。どこにでもいる普通の高校生です。現代文で心情を、風景が変わっていく様子で表すということを知りましたが、そのことを当時の先生がスラムダンクで例えていてとても腑に落ちました。何気ないたとえ話でしたが、自分にはとても刺さりました。これといった授業の思い出はないですが、今思うと高校の時に、教員からある程度放任されていたので、自分で考える力が身についたと思います。

総探で授業共創する！

隠岐島前高校の授業共創と聞いて一番に思いつくことは、総合的な探究の時間（以下、総探）ではないでしょうか。総探の授業に向けて学年の先生・コーディネーターたちが全員集まり、毎週会議をして授業の内容や方針を決めていきます。総探で行われる探究は探究の学習対象について文部科学省より次の3つのポイントが示されています。

1点目は実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する事象であり、特定の教科・科目等に留まらず、横断的・総合的な点です。2点目は、他の探究が、その教科・科目等における理解をより深めることを目的にしていることに対し、総合的な探究の時間における探究では、複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせ、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する問題を様々な角度から俯瞰して捉え、考えていく点です。3点目は、総探の時間における学習活動が、解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に対しして、最適解や納得解を見いだすことを重視しているという点です。これらのポイントを踏まえた総探の授業アイデアを、その年の生徒の特徴に合わせて授業案を打ち合わせで考えていきます。今年度は、教科×教科×地域課題のゼミを1年生の後半の授業で設定し、取り組んでいます。隠岐島前高校の教科やこれまでの経験の異なる学年の先生・コーディネーターたちが忌憚のない意見を出しながら合いをします。これまでの島前高校の総探の蓄積やその時のメンバーの得意分野、時代の変化、新しいことへのチャレンジなど様々な要素がうまくかみ合うように、何度も話し合いをしながら決めていきます。

いままでどおりでいい、と簡単に授業内容を決めるのではなく一つ一つの授業を丁寧に考えていくことが島前高校の総合的な探究の時間の魅力の一つだと思います。

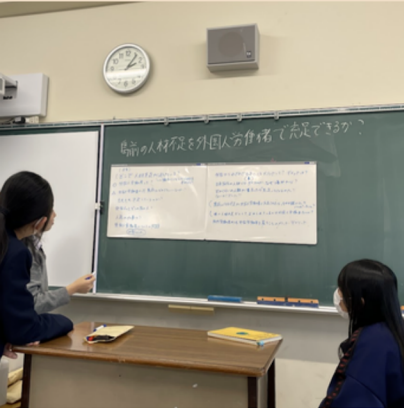
1年生総探の実践について

総探の授業で実施された教科×探究×地域のダイジェストです。各教科の見方・考え方を生かして課題に取り組んでいます。

地産地消は健康にいいのか？

～崎みかんのビタミンCから考察しよう～

化学×家庭×地産地消で探究をするゼミです。地産地消の問題はフードマイルージをはじめ、輸送距離による環境への影響を訴えるものが多いですが、家庭科の視点で健康にどのような影響があるのかを化学の実験で解明していくゼミです。全員でビタミンCの実験を行い、ビタミンCについて基本的なことを学び、データが出揃ったあとはそれぞれで論文を仕上げしていきます。



島前の人材不足を外国人労働者で充足できるか？

公共×英語×人材不足を探究していくゼミです。1年生の地域共創実践活動で多くの事業所が人材不足を課題にあげました。これは、島前地域だけではなく、日本の緊迫した課題であり、今回はその人材不足を外国人労働者で充足できるかを探究しています。探究テーマに対して、生徒たちが自ら多くの疑問を挙げることからスタートし、それについて文献調査を行いました。さらに、地域で活躍している外国人の方々にインタビュー調査も行いました。自らの疑問に自分たちで解決していくという探究を意識した活動をしています。

海士町に新店舗〇〇をつくり、年間120万円の利益を出すことは可能か？

海士町に飲食店や娯楽施設などを作って、利益を出すことができるのかを数学×ビジネス×地域で探究していきます。商売をするための基本的な情報をインプットし、島前地域でキッチンカーをやっておられる方に話を聞いたり、自分で考察しながら仮説を立てて検証していきます。数学の視点を生かしながら、現実の課題に切り込んでいきます。



源氏香から島前を探究

数学×国語で源氏香を学び、学んだことから島前地域の課題を探究していくゼミです。源氏香は江戸時代にあった香りを当てる遊びで、5つの香の香りをかぎ分けて、図形を完成させます。完成した図形は桐壺と浮夢橋を除く52帖の源氏物語の各帖を表現しています。これは数学の「場合の数」で計算できます。数学や国語の視点を生かし、生徒たちは源氏香の遊びをどのように島前を探究していくのか。

島前に生息する生物にとって欠かせない自然環境は何？

今年度、西ノ島町で隠岐馬の化石が発掘されました。地理的な条件により偶然発見されましたが、このことから生物×地理の視点の面白さを見つけました。生物がなぜそこに住み着いているのかを地理の視点を生かして探究していきます。西ノ島町のふるさと館に行ったり、隠岐しぜん村の深谷さんの話を聞いたりしながら各自で興味のある島前地域の動植物を調べています。

